

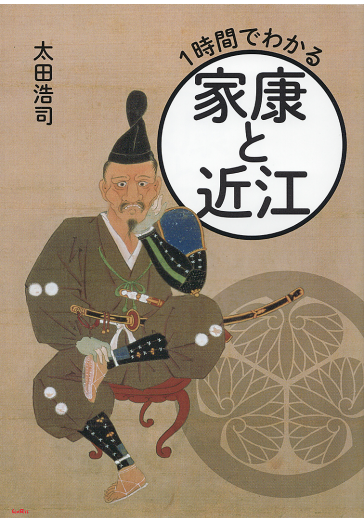


湖北

近江からの視点にこだわって徳川家康の生涯を追った「1時間でわかる家康と近江」(サンライズ出版)が出版された。

著者は大河ドラマの時代考証を務めたこともある淡海歴史文化研究所の太田浩司所長。今年のNHK大河ドラマ「どうする家康」を楽しむ上で、ドラマの概要が容易に理解できるテキストになるよう工夫を凝らしたという。

前敦賀攻めから姉川合戦へ▽徳川家康と国友鉄炮▽「神君伊賀越え」をめぐる▽関ヶ原合戦と徳川家康——などの章立てで、近江の史実と家康の生涯を関連づけて紹介している。



出版された「1時間でわかる家康と近江」は、紙を凝らしたという。

奥野さんは昨年12月7日に長浜市湖北町で魚を取った瞬間のミサゴとそれを狙うセグロカモメを撮影。審査員から「シャッターチャンスを見事にとらえている。2羽の鳥の表情がよく、しぶきを含めた構図も素晴らしい」と評価された。



金賞に輝いた奥野宏樹さんの作品「もらったぜ!!」

長浜

「家康と近江」を知る一冊 大河ドラマを楽しんで

長浜

県内外から132点の応募があった「ながはま野鳥写真コンテスト」(湖北野鳥センター主催)の審査結果が発表され、福井県越前市の奥野宏樹さんの作品「もらったぜ!!」が金賞に輝いた。

湖東

彦根

川の思い出を絵手紙に 西中の3人入賞に輝く

「川遊び」川での思い出。川への思い」をテーマに国土交通省が募集した2022年度絵手紙コンクールで、彦根市立西中2年(当時)の3人が入賞した。

佐藤さんの作品は、富士山のようなシルエットを背景に花火が上がり、川沿いの夜景に映えている。高橋さんは地平線の太陽と鉄橋、指に止まったトンボを組み合わせ「この一瞬をこのまま」と思いを記した。

河川愛護月間(7月)に合わせ未就学児から一般までを対象に募集。全国から726点が寄せられ、20点の入賞が決まった。

名称は「城北百間橋」 2公園を結ぶ連絡橋



HATOスタジアム(上)から金亀公園への「城北百間橋」

彦根総合スポーツ公園(彦根市松原町)と金亀公園(同市金亀町)を結ぶ連絡橋の名称が「城北百間橋(じょうほくひゃつげんぼし)」に決まった。

両公園は2023年度に整備が終わり、スポーツ公園は国民スポーツ大会(25年度)の主会場になる。彦根市が昨春秋に連絡橋の名称を公募したところ、155点が寄せられ、そのうち城北小6年(当時)、北村佑樹さんの提案が選ばれた。